

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います。

# まほろば



2011.12  
第125号

## 第59回生看護への誓い式

私たち59回生は、10月25日に無事看護への誓い式を迎えることができました。

今回の誓い式では、合唱曲としてKiroroの「best friend」にクラス全員で挑戦しました。クラスみんなで話し合い、何個か挙げられた候補の中から、最終的にこの曲に決まりました。また、合唱曲以外にも、誓いの言葉やしおりもみんなで決める中でクラスの団結力は深まってきたのではないかと感じました。昼休み



や放課後などの空き時間を有効に活用し、誓い式当日は緊張した空気の中、合唱やナイチンゲール誓詞など、練習以上の成果を出すことができたと思います。

今回の誓い式を通して、自分のなりたい看護師像を再確認でき、目標に向かって何をすればよいか考えることができました。また、これから授業や実習などで、看護の知識や技術を身につけ、一步一步自分のなりたい看護師像に近づいていけばと思います。

これから見えない未来に悩んだり、葛藤することがあると思いますが、周りの仲間たちとお互いに支えあいながら、感謝の気持ちを忘れることなく、進んでいきたいと思います。最後にこれからも一生懸命がんばる私たちを温かい目で見守ってください。

59回生：太田 翔平

# 深まる秋色に染まる弘前 ～弘前城菊と紅葉まつり～



去る10月21日（金）～11月13日（日）、例年より期間を延長して”弘前城築城400年記念バージョン”弘前城菊と紅葉まつり」

が開催されました。

今年のメイン会場のテーマは、弘前市内の小学校校長である知坂元さんが「築城400年の節目に、初期の弘前城をイメージし、楽しむきっかけになれば」と描いた漫画「とつけき！弘前城」。色鮮やかな菊花を纏った37体の菊人形が、漫画の中の様々な場面を生き生きと再現していました。

また、会場である植物園に向かう途中には、東北6県の祭をモチーフにした菊のアレンジが設けられ、それぞれの祭の扮装をした「たか丸くん」のイラストも素敵でした。

イベントでは、「弘前城財宝絵巻～弘前城を守る伝統の珠玉～」と題した弘前公園内の宝探し人気を集めました。宝の地図を頼りに宝箱を探し、キーワードを集めて行くうちに、普段は見逃していた園内の見所を再発見でき、楽しさ倍増でした。

更に、特別企画として、デジタル掛け軸（D-K）というイベントも行われ、日没とともに天守・辰巳櫓にプログラム化された光の掛け軸が映し出される光景は、非常に幻想的でした。

「弘前城築城400年」の年にふさわしい、スペシャルな秋のひとときを過ごすことができました。



## 11月の市民講座『不妊症のはなし』



ある一定期間（通常2年）、性生活をもっているにもかかわらず妊娠しない状態を「不妊」と言います。たとえ「不妊」であっても、妊娠を望んでいなければ「不妊症」ではありません。不妊症の原因は男性側・女性側両方に存在し、その比率は半々です。したがって検査は男女同時に行う必要があります。女性側の不妊の原因の主なものとして、排卵障害、着床障害、卵管障害、子宮頸管の精子進入障害があげられます。排卵から、受精・着床までのどこかにトラブルがあると、それが不妊の原因となってしまうのです。また、内膜症や性感染症などによる不妊症も増加しています。不妊治療は、性交のタイミング治療や人工授精などの「一般不妊治療」と体外受精・顕微授精などの「生殖補助医療（ART）」に大きく分けられます。これらに、必要に応じて、排卵誘発治療を併用します。

近年、不妊症が増加しており、7組に1組のカップルが不妊であるとされています。その背景のひとつには晩婚化・晩産化がすすんでいることがあげられます。女性の妊娠する能力（妊娠性）は加齢により低下し、

35歳を過ぎるとその傾向は加速します。卵子の数・質ともに劣化すれば妊娠は容易ではありません。不妊治療の技術は一昔前に比べると格段の進歩をとげましたが、それでも必ずしも良好な成績をあげているとは言えません。もし「不妊症かも？」と感じたら早めに医療機関を受診しましょう。

第74回 国立弘前病院市民講座

# 不妊症のはなし

弘前病院産婦人科医師  
木村秀崇

日時：平成23年11月30日(水)17:40～18:40  
場所：弘前病院地域医療研修センター  
どなたも自由にご参加ください

弘前病院教育管理委員会

産婦人科医師：木村 秀崇

# 「第3回母乳育児フォーラムを開催しました」

## テーマ『伝えよう！ 家族と地域の母乳育児』

日 時 平成23年11月26日(土)  
13:00~16:00

場 所 国立病院機構弘前病院  
地域医療研修センター1F

### 【内 容】

- 講 演 「共につくる、  
赤ちゃんにやさしいコミュニティを！」  
講 師 エクランド源稚子氏  
米国新生児ナースプラクティショナー(NP)
- その他 ○健康相談・育児相談コーナー  
○沐浴体験コーナー<sup>1</sup>  
○手洗い実技コーナー<sup>2</sup>  
○簡単に作れる手作りおもちゃコーナー<sup>3</sup>

- ★ 参加費は無料です。  
★ 母乳育児に興味のある方は  
ご自由にご参加ください。  
★ 問い合わせは母子医療センターまで  
Tel 0172(32)4311

主 催 国立病院機構弘前病院BFH委員会

# 第二回母乳育児フォーラム

### 催し物

- ①栄養相談コーナー
- ②医師・薬剤師相談コーナー
- ③手洗いコーナー
- ④手作りおもちゃコーナー・子どもコーナー
- ⑤測定コーナー
- ⑥たんぽぽコーヒー喫茶
- ⑦ポスター掲示（・母乳Q&A・  
母乳ができるまで・災害時の育児  
ポイント・弘前病院の活動報  
告）
- ⑧沐浴コーナー
- ⑨弘前城築城400年「たか丸くん」  
来場



当日は、34名の院内職員・学生のボランティアの協力を得て、実技・相談コーナーや母乳育児に関するポスター掲示などを参加者の方へ説明・アピールをしました。

講演会には、県内より82名の参加をいただき、講師のエクランド氏より、世界の新生児の現状・アメリカでのNPとしての活動・地域社会で赤ちゃんを育んでいくことの大切さなどをお話ししていただきました。参加者からは、「講師の先生の熱意が伝わった・親子のきずなや母の子への愛を強く感じた・母乳やコミュニティの大切さを知ることができた・カンガルーケアの利点・母乳の利点など多くのことがエビデンスに基づいて世界中で実践されていることがわかった・コミュニティにつ

いて再認識できた・イベント付きで楽しかった・これから自分の進む看護に意欲的に取り組める元気と勇気をいただけた」という意見が聞かれ、これから医療を担う世代へ勇気を与える内容でした。

今回は第3回目の母乳育児フォーラムを、地域の市民や開業医等で働くスタッフ、看護学生、教員、保育士などの参加により開催する事ができました。病院内の活動を広く育児に携わる方々に知っていただくことで、地域で母子・家族を盛り立て見守り、コミュニティのなかで将来を担う子どもを育んでいくけるようにとの思いです。ご意見のなかからは、「母乳を希望する母親や家族の思いを汲み取り、それに対する看護師や助産師がどう関わっているのか知りたい」「ベビーCPRIについて指導して欲しい」などの実践的な要望が聞かれており、病院広報誌の記事連載や、院内ポスター・パンフレットなどの作成をさらに充実させて、情報発信していきたいと考えました。



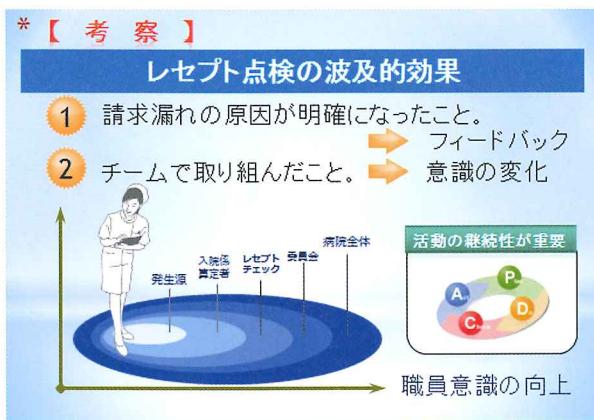
母子医療センター看護師長：前田 美佐子

# 第65回国立病院総合医学会に参加して



平成23年10月7日（金）・8日（土）に開催された第65回国立病院総合医学会に参加しました。今年の学会は岡山県岡山市で開催され、当院で取り組んでいる「診療報酬点検の取り組み」についてポスター発表を行いました。ポスター賞等受賞には至りませんでしたが、地域の皆様にも当院の医療が適正に評価されますよう今後も病院全体で「適正」な診療報酬に取り組んでいきます。

専門職：石川 修



## 来年の干支は『辰』

来年の干支は「辰」ですが、本来、私たちが干支と言っているのは、「甲（きのえ）」「乙（きのと）」「丙（ひのえ）」「丁（ひのと）」「戊（つちのえ）」「己（つちのと）」「庚（かのえ）」「辛（かのと）」「壬（みずのえ）」「癸（みずのと）」の「十干（じっかん）」と呼ばれる10個の要素と「子」「丑」「寅」「卯」「辰」「巳」「午」「未」「申」「酉」「戌」「亥」の十二支で構成される60の組み合わせ、すなわち60年が一サイクルとなります。ちなみに24年度は「壬辰（みずのえたつ）」になります。

数え年61歳、還暦を迎える方は、おぎやーと生まれて「十干」「十二支」の組み合わせが一回りしたことによる行事になります。

さて、昭和41年が「丙午（ひのえうま）」でした。この次はいつくるのでしょうか？

（編集部）

### 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

### お知らせ

#### 編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘また、お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

### 発行元



Hirosaki National Hospital  
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：臨床研究部長 泉 井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地  
TEL 0172-32-4311  
FAX 0172-33-8614  
URL <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>